



二股らぢうむ温泉 石灰華ドーム～長万部町

夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島
夕陽渡島
 夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島

NO. 136

平成30年11月26日

夕陽会渡島支部

事務局

北斗市・久根別小学校



夕陽 新しい時代へ

夕陽会渡島支部

副支部長 小笠原 英 緒

大学入学で函館へ来た時の感想「なんで道路の上に電線がたくさんあるのだろう」「雪がないけどずいぶんほこりっぽい」ほこりっぽさはスタッドレスタイヤの登場でなくなりましたが…。

自分の学生時代は道外出身者が多く研究室や部活の同期では道内出身は自分だけでした。特に東北と関西の出身者が多かったようです。言葉や文化の違いを感じ、そして多くのことを学んだ四年間の大学生活でした。

卒業式が終わり道外の仲間は故郷へ旅立ちます。連日のように連絡船の桟橋まで行きました。見送る方は日ごとに減っていきます。そして最後に取り残されたような気持ちで道内の各地へ散っていきます。函館での別れはやはり連絡船が似合っていました。

それから三十五年以上経ちました。町中にコンビニができ、高速道路や新幹線が開業しました。そして年明けにはボーニデパートが幕を閉じるなど当時考えもつかないことが現実となっています。

平成の終わりに夕陽会創立一〇〇周年を迎え、新しい時代の始まりが一〇一年目のスタートとなることに大きな意味を持つことになるでしょう。これからの社会、そして母校がどのように変わるのか全く予想がつかないことが起きることは間違いないでしょう。

ただ、開学の精神にある「土地墾闢（開拓）」という新しい分野を切り開いていくチャレンジ精神旺盛な人材を輩出していく気風はいつまでも変わらずにいて欲しいと願います。

支会だより

自然美術館 八雲町



八雲支会長
(東野小学校)
中 田 裕 治

一つのまちに、二つの海。
今と昔とこれからと、三つの
時間が交差する。
四つの季節の煌きは、旅人の
五感と第六感を刺激する。
七色の魅力に包まれた北の大
地に八雲あり。

八雲町は、平成十七年、古く
からの歴史を有する檜山管内の
旧熊石町と、明治初期尾張徳川
家の旧家臣らによって町の基礎
が作られた旧八雲町が合併し新
「八雲町」となりました。現在、
豊かな自然の中で営まれる農業
と漁業は、基幹産業として地域
経済を支える基盤となっていま
す。また、道南北部地域の中心
都市として、医療機関や商業施
設などの都市機能がコンパクト
に整備されたまちであり、その
一方で、サケの自然産卵や天然
記念物のオジロワシやオオワシ
の飛来が観察できる、多様な自

然と都市の利便性がほどよく共
存するまちです。

この恵まれた環境にある町内
の学校数は十四校（小学校八、
中学校四、高等学校一、特別支
援学校一）です。そして、本年
度の八雲支会は小学校七校（落
部、東野、野田生、浜松、八雲、
山崎、熊石）中学校四校（落部、
野田生、八雲、熊石）教育委員
会からなり、会員は四十七名で
スタートしました。

去る五月十八日には、本部会
長藤川隆様、渡島支部幹事長白
石眞嗣様、八雲町教育委員会教
育長田中了治様ご臨席のもと、
八雲支会総会・懇親会が開催さ
れました。総会では母校の現状
や夕陽会の取組について情報を
共有し、懇親会は、終始和やか
な雰囲気、会員相互の親交を
深めるとともに、その結束を一
層強めることができました。

今後も夕陽会会員としての繋
がり大切に、絆を深めなが
ら、八雲町子どもたちのため
に、渡島教育の充実と発展のた
めに力を尽くしていきたいと思
います。

支会だより

ロマンと今を見つめ



木古内支会長
(木古内中学校)
信 田 博 之

木古内町は、渡島半島西部地
区の入り口にあり、昔から交通
の要所として発展をしてきまし
た。その歴史はとても古く、町
内からは多くの遺跡が発掘され
ています。新たに、幸連五遺跡
から全国初の「人の顔が描かれ
た」石版が出土しました。三角
形の中に記された顔を描いた、
いにしえの人はどんな思いを込
めたのか、想像するとまさに古
代のロマンです。

そして今、町は新幹線の駅と
共に新たな一步を踏み出しまし
た。同時に開業した「道の駅・
みそぎの郷きこない」は、全国
的な旅行雑誌において「道の駅
満足度ランキング」に総合一位
等各部門で上位に入る充実ぶり
を見せております。

さて、本年度の木古内支会、
木古内小八名・木古内中七名・
在住会員七名の計二十二名で構

成されています。人数的には小
さな組織ですが、町内の教育を
つかさどる教員の半数以上を占
めその責任の大きさを感じてい
るところです。

現在町では、次年度から始ま
る「第七次木古内町教育総合推
進中期計画」の策定が行われて
います。今後その具現化に向け
た取組を通し、子どもたちや町
民のため、目指す教育を推し進
めていきます。

去る、七月十九日には、本部
会長藤川隆様、渡島支部監査
佐々木理之様、木古内町教育委
員会教育長野村広章様ご臨席の
もと、木古内町支会総会・懇親
会が開催されました。藤川会長
様からは温かい励ましやご示唆
をいただきました。会員相互の
親睦を深め、新たな刺激も活力
となり、有意義な時間を過ごす
ことができました。

人数は少ない木古内支会です
が、会員一人一人が、地域の中
でそれぞれの力量を発揮し、木
古内町子どもたちが明日を切
り拓く力を身につけるため、よ
り一層励んでいきたいと思いま
す。

新会員だより

風は南から



渡島教育局
(指導主事)

目黒 範和

三年間の後志管内での指導主事としての勤務は、大変有意義な時間であったことは間違いありません。それは、道内各地で多くの教職員が、熱意をもち、指導に奮闘していることを実感することができたからです。

中でも、夕陽会の諸先輩の方から、教育にかける情熱が、子どもたちへの粘り強くかつ丁寧な指導・支援の原動力であることを学ばせていただきました。

私が後志でお世話になった夕陽会の先輩から「教育の風を南から吹かせていこう。」と激励をいただきました。この言葉に込められた思いに私は、教育行政に携わる者として感動するとともに決意を新たにしました。

これまで渡島で勤務してこられた諸先輩の歴史を受け継ぎ、この地から、北海道教育の更なる充実に向け、熱く凛とした風を吹かせていくことができるよう、努めてまいります。

おかえりなさい



松前支会
(大島小学校)

嶋田 祐介

室蘭市立海陽小学校で四年、伊達市立長和小学校で五年勤務し、この度、松前町立大島小学校に異動して参りました。胆振管内でも夕陽会の先輩方には大変お世話になり、まさに右も左も分からない私に、教師としての基本を優しく教えていただきました。

教職に就いて十年の節目の年に、生まれ故郷である渡島の地に帰って来られたことを、うれしく思います。

「おかえりなさい。」と出迎えてくれたのも、夕陽会の先輩でした。

勤務校は児童数二十三名の完全複式校です。過日、渡島複式教育研究大会において、算数科の授業を公開しました。初めての複式学級での授業は苦悩の連続ですが、初心を忘れず、謙虚に学び続けます。今後とも指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

日々成長を



福島支会
(福島小学校)

伊藤 良輔

今年の四月に上川管内占冠村立占冠中央小学校から福島町立福島小学校に赴任いたしました。これまで七年間、上川管内での勤務でしたので、今回の異動は期待と不安が入り混じったものでしたが、福島小学校の職員の皆様には温かく迎えていただき、とても心強く感じています。

大学を卒業して十一年が経過しようとしていますが、まだまだ力不足を痛感する場面が多くあります。それでも折れることなく自分のできることを一生懸命に取り組んでいき、子ども達に負けず自分自身も成長させられる教師になっていきたいと日々思っています。

同窓の先輩方、皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

感謝



福島支会

(福島中学校)

宮 腰 侑 河

今年の三月に大学を卒業し、四月から期限付き教員として福島町立福島中学校に勤務することになりました。

この半年間を振り返ってみると、本当にあつという間の半年間だったと思います。今年私が副顧問を務める福島中学校野球部は、全道優勝を果たし、全国大会に出場してきました。その姿をベンチから近くで見えていたが、生徒達の誰一人諦めない姿。そして、勝った瞬間の最高の笑顔。とても素晴らしいものでした。この姿を間近で見られることが教員の生きがいなのではないかという風に感じました。生徒達にはとてもいい経験させてもらいました。感謝しています。

この半年間で学んだことを、生徒達に授業や部活動を通して伝えていき、一緒に成長していきたいと思います。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

新会員になって



木古内支会

(木古内中学校)

金 澤 誠 一

本年四月に、むかわ町立穂別中学校から赴任しました。教頭職といたしましては、保護者や地域、そして子どもたちの本校教育に対する高い期待に応えるべく、学校がよりよく変わっていくため、先を見通しつつ、自分のこれまでの経験を生かした学校運営に取り組んでいくところです。

学校が変化していくためには、働き方改革が推進されている中、様々な調整が必要となるなど、新たな精力をつぎ込まなければなりません。しかし、こうした努力が子どもたちの学びへ還元されることは、何より嬉しく感じます。

今後とも、諸先輩方からの御指導をいただきながら、子どもたちが夢を実現することのできる力を育んでいくことができるよう努めてまいりたいと考えております。

半年が過ぎて



北斗支会

(上磯中学校)

中 根 孝 規

今年の四月に、宗谷管内の中頓別町立中頓別中学校より北斗市立上磯中学校に広域人事で赴任しました。大学時代を過ごした渡島への七年振りの帰郷。懐かしい景色の中、新しいことを学ぶ毎日です。

上磯中学校は大規模校。着任当初は前任校との違いに戸惑うこともありましたが、夕陽会をはじめとする優しい先輩方に取り組みを教えていただき、充実した日々を過ごしております。

特に教科指導に関しては、わからないことはすぐに質問できますし、自分の指導方法のどこに問題があるのか。どうすれば改善できるかのアドバイスも受けることができます。スキルアップの場としてこれほど適している環境はありません。

三年後、渡島で学んだことを宗谷の子どもたちに還元できるようにこれからも頑張ります。

一年目



七飯支会

(大沼小学校)

森 瑞 穂

四月から七飯町立大沼小学校に赴任しました。私は生まれも育ちも渡島ではなく、大学進学のために来ました。卒業後も渡島で勤務させていただけることになり、驚きとともに大変嬉しく思っています。

社会人、そして教員としても一年目で、分からないこともたくさんあり、悩む毎日です。ですが、周りの先生方や保護者の皆さんに助けていただき、そして何よりも明るく素直な子どもたちに元気をもらいながら楽しく充実した日々を過ごしています。

「保健室の先生って暇そうではないね」この言葉は嫌味に聞こえますが、私は褒め言葉だと思っています。暇そう：つまらない話でも聞いてくれそう：そう思わせられる養護教諭はすごいと思います。目指しています。

まだまだ未熟ですが、これからも精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

感謝の気持ちでいっぱいです



七飯支会

(軍川小学校)

小 又 洋 子

今年度、函館市立柏野小学校より、七飯町立軍川小学校に昇任教頭として赴任しました。

豊かな自然の中でのびのびと、明るく元気のよい子どもたちに囲まれ、地域・保護者の皆様方に支えられて過ごした半年間は、あつという間でした。

新しい環境での生活に、多くの戸惑いがあるものと覚悟しておりましたが、温かく迎え入れて下さった皆様方のおかげで、楽しく、充実した日々を過ごしております。

そして、新たなスタートをきった私に、たくさんの方の夕陽会の先輩方からお声をかけていただき、とても心強く感じるとともに、改めて、強い絆を実感しております。

皆様の心の温かさ、やさしさを忘れず、「ありがとう」の笑顔と気持ち絶やさず、これから、恩送りしていけるように、人と人との繋がりを大切にしていきたいと思っています。

三十年ぶりの帰還



八雲支会

(落部中学校)

石 澤 修 介

檜山管内で教員生活をスタートして三十年、もう戻ることはないだろうと思っていました。が、再び渡島で生活する機会を与えられました。噴火湾の穏やかな気候や5号線から見える風景などは幼い頃から慣れ親しんできたものです。五月の夕陽会渡島支部「総会・大懇親会・新会員歓迎会」では多くの諸先輩や同期と再会し、学生時代の失態やら何やらで、恥ずかしくも懐かしく心温まる時間を過ごすことができました。落部中学校は、ほっかいどう学力向上推進事業「小中一貫教育支援事業」の指定を受けるとともに八雲町落部中学校区小中一貫型コミュニティスクールの先進校としての使命を担っています。微力ですが、渡島で育てられた恩返しをするつもりで渡島管内教育の発展に貢献していきたいと思えます。

半年を振り返って



長万部支会

(長万部小学校)

金 澤 かおり

今年の四月に、長万部町立長万部小学校に赴任しました。四年前、期限付き教諭として勤務していた渡島から新採用として上川管内で勤務して参りましたが、この度、渡島管内へ赴任することができました。

四月からあつという間に半年が過ぎました。環境が変わりましたが、周りの先生方や保護者、子どもたちに支えられ、過ごす事ができました。

まだまだ未熟者ではありますが、これからは謙虚な気持ちを忘れず、常に学び続ける姿勢で、支えてくださる周りの人に対する感謝の気持ちを胸に、これから教育活動にあたってきたいと思っています。

夕陽会をはじめとする諸先輩方からご指導をいただきながら、少しでも成長できればと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

半年が過ぎて



長万部支会

(長万部中学校)

小 原 愛 華

今年の三月に地域協働専攻国際協働グループを卒業し、四月から長万部町立長万部中学校に赴任いたしました。

初めての勤務ということもあり、戸惑ったことが非常にたくさんありましたが、周りの先生方や生徒たちに支えられつつ毎日を送っています。こうした先輩方の助けがあったからこそ、半年間を過ごすことができたのだと、ありがたみを強く感じています。

生徒たちと毎日を過ごしていく中で悩むことは多くありますが、成長を感じられる部分を見たり、新たな発見をしたりといった経験も最近になって増えました。

教員として未熟ではありますが、これからは学び続けることを忘れずに精一杯努力し、教育活動にあたりたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

終身会員

の 声

初任校での思い出



昭和三十九年 一類
蛎崎 哲也

私が経験した五校の小学校のなかで印象が強かった初任校のことを記したいと思います。

初任校は砂原町の沼尻小学校でした。当時は中学校との併置校で小一から中三までの多様な学年の存在でしたが、中学生は全ての面で小学生の面倒をよく見てくれました。

当時、体育館がまだなかったので廊下の丁字路を利用して整列し子ども達に初任の挨拶をしました。全校朝会も毎回この隊形でした。横を向いて話したり後ろを向いて話したりは新卒の私には大変な出来事でした。

小学校は複式学級（三四年）もあり五学級、中学校は各学年一の三学級でした。私は五年生の担任でしたが、複式学級の先生のご苦勞を毎日の学校生活ですごく感じました。

駒ヶ岳の山麓に学校があった

のでグラウンドは火山灰や礫だらけで運動会に備えての石拾いは回数も多く小石の量もすごいものでした。

夏休み中の盆踊りはグラウンドで実施したので、私達若手教員も舞台設定を手伝い地域住民と踊り続けました。

校区は酪農と漁業が中心でしたが、特にスケソウダラと大きなタコが目立っていました。新卒の私には教員・一住民としても強烈な地でした。

變動の激しい天・地・人



昭和三十九年 一類
佐々木 昭雄

最近のテレビで、五才の女の子ちゃんが出て来る番組がある。退職して十七年になるか、何と、ボーと生きて来た面があることしかり。

天、地、人について目を向けて見ると、すごいスピードで変化していることに驚きをおぼせません。まずは天に関して、北のミサイル、ロケットだのと騒がしい

が、「はやぶさ2」の小惑星への飛行。そして、小型ロボットの着陸と映像。本体が着陸することにはわくわくします。想像のつかない三億キロ先のことが地球からの指示、操作が正確にできることにびっくりです。

次の地に関しては、九月六日の胆振東部地震です。被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。震度は経験したことのない震度7と言うことです。台風後の地震でもありました。これに加えてブラックアウトという全道規模の電源の消失。これも全く経験のないことで、しかも、長時間、生活への重大な影響、命の危険を与えたことは否めません。早急の対策を願いたいものです。

最後に人ですが、世界の各国の主要な人物、大統領、委員長首相は、国民目線で政治を行ううとしているのでしょうか。

スーパーボランティアの尾畠春夫さんのような気概を持った政治家が多く出てほしいと思っています。本当にボーと生きられない世の中になつて来ました。

今に生きる



昭和三十九年 一類
佐藤 勝 博

平成二十九年秋、初めて一ヶ月間の入院生活を経験した。

この事で私の日常生活が大きく変容したのである。

入院直前は、体力、気力、意欲とも実に多くの減退傾向が見られていた。青春を燃やしたセーリングヨットや激しく動くスポーツにはまったく興味を持てなくなり、静かに行動するものだけに目が奪われるようになっていたのです。

手術は頭部の髄膜腫瘍を約四センチ切り取るというものであったが無事に完了し、めまい、吐き気、偏頭痛などに悩んでいたのが見事に解決し現在に至っている。

手術後、体力だけでなく、食べ物に対する好みの変化や新しい事柄に挑戦しようという意欲が再び湧き出てきた。

例えば、砂糖を大量に入れな

ければ飲めなかったコーヒーが砂糖なしのブラックでも良くなった事、今までまったく食べられなかったある種の野菜をも好んで食するようになったことである。又、町会長として多くの人々に接する機会があるので、それだけでは物足りなくなり、より多くの人々に溶け込んでいるという気持ちが強くなっています。

さらには、町内にある踊りのサークルにも入り、今、「無法松の一生」の歌詞に合わせて振り付けの習得に汗を流しているところです。

これらの事は、以前の自分では考えられないことでした。

また、平成三十年年度から、函館市の社会教育委員として活動し始めたことです。年、数回の集まりですのでどれだけ貢献できるかわかりませんが、このような分野にも目を向けて来たのも今までにないことです。

退院後は、早朝に目覚めると、約一時間ほどベットの所でヨガ体操を行い、その後家族と犬とで三十分程度だが朝の散歩を楽

しんでいます。

これなどは健康を維持する適切な行動だと思っています。

食事内容の工夫と運動を通して一年間で約十キロもの減量を成し遂げることができました。

これからの数年先のことを考えることは勿論大切ですが、と同時に、今の私に何が出来るのか、今という時をどう過ごしていくのが良いのか、今という貴重な時を大事にしたいと思いつつ生活している昨今です。

時には、時間を見つけ、昔習った童謡や古い演歌を一人ハーマニカで吹く事も無上の楽しみとしています。

会員名簿の作成に携わって



昭和三十九年 一類
佐野 武

今年、我が母校の同窓会（夕陽会）は創立百周年を迎え、その記念事業として記念式典・祝賀会が、六月に多数の会員出席のもと盛大に開催されました。

先日、創立百周年記念の一つ

「会員名簿」を発行するのとこので、各期の名簿作成者に打合せ会議開催の案内がありました。

私がこの同窓会名簿作成に携わったのは、昭和四十二年四月から教育大附属函館中学校に勤務したとき、丁度、同窓会名簿作成の事務局を中学校が担当し、私とその係になってからで、同時に我が同期の名簿の作成も担当することになった。

同窓会名簿は、名簿作成打合せ会議後、各期作成者が大変な労力を費やし手書きで作成した原稿を事務局で集約、その原稿を係で分担し、各期の名簿作成者の協力を得て確認・点検・校正し作成していました。

現在、数年前から進歩したIT技術（PC）を導入し、打ち込まれたデータを修正するだけの簡単なものとなっている。

なお、これまで隔年毎に作成していた名簿は、これからは三年毎に発行することになった。

我々同期も今年喜寿を迎えた。名簿作成に携わって約五十年。我々の同期会「夕陽三十九

年の会」は、平成二年から今日まで毎年実施してきた。いつも名簿は欠かさず出席者に配り、これからもより正確な名簿づくりを心がけ、我ら同期の絆を深め大切にしていきたいと思っている。

それぞれの思い



昭和三十九年 一類
堺 要 夫

「私も退職の年度を迎えまして・・・」高校の数学教師をしている教え子が突然訪ねてきた。年賀の交換は欠かさなかったとはいえ、四十年余を経た思わぬ訪問をどのように受け止めたらいいか、戸惑いも隠せなかった。

「三年生の秋、進路先に迷い、相談に伺ったときです。」小生の記憶からは消えている。その時の帰り際の言葉が鮮明に残っている、と彼は続ける。「君にとってぼくとの出会いがよかったのかどうか」「ぼくにとって君との出会いがよかったのかど

うか」と。どんな思いを込めたのか、今はたどる術はない。ただ、生意気で、粹がつて生きていた当時の自分の姿と重ねると、言葉の意味とは別な意図が透けて見える。当時の彼は、そこからどんな意味を読み、どんな意図を感じとったというのであるうか。この言葉を忘れずにいるのはなぜなのか、彼は説明しなかったし、小生もまた、問わなかった。

話す者の言葉と聞く者にとつての言葉は、当然ながら、交差するようであり、決して交わらない領域を持っている。高三の彼が、言葉にまといつくこの交わらざる状況をどのように乗り越えていったのか。

「このコーヒーおいしいですね。」「高校の教師でよかったですよ。」「カップをゆつくりと置いて、彼は席をたつた。



日頃の事など



昭和三十九年 一類
杉 沢 正 洋

先日、週一で通っている学童保育所で大型絵本を持ってくれた六年生にめぐり方が上手だとほめた。その女の子はちよつと変な顔をした。帰り道、思い出した。めくつたのは自分で、彼女は受け取ってくれたのだった。

その本は持ち方が読み手にとつてとても読み易い角度だったので感心したのだが、ほめ方を間違えた。

妻に柿食べたいと言つたつもりで、梨食べたいと言つたりもする。信号を何気なく渡つて青だったよな、と振り返りホツとすることもある。後期高齢者と呼ばれる年齢に達して、衰えは増すばかりである。

それでもいくつか、活動はしている。動けることに感謝である。ただ、これには結構、人とのつながりという面がある。例えば退公連、これは退職公務員

の福利厚生、年金の充実に寄与しようとする組織だが、余り難しく考へてはいない。義侠心に厚い支部長と誠実に仕事を担う幹事長の、いくらかでも役に立ちたいという思いからである。

一方、この年になつて自分でも驚くことがある。ここ一、二年のことだけで言えば、草むしり大好き人間になりそうなのである。猫の額ほどもないわが家の庭に、来春、野の花が咲いているかもしれない。公園法などに接触しないかたちでこれを実行するのはなかなかの苦労だが、楽しみでもある。とりあえず、腰痛が大敵だ。

思いつくまま 独り言彼は



昭和三十九年 一類
堀 邦 彦

数年前から札幌駅に向かう電車に乗車。そこには、不思議な空気が漂っていた。

乗客の多くは、学生や勤め人と覚しき若者で、それぞれ席に座し、吊革を手に立つ。ラッシュ

を過ぎたとは言え混み合っている。にもかかわらず、極めて静かだ。若者の多くは、イヤホンを耳にスマホの画面を凝視し指先を器用に動かす。無表情に。その言い様のない空気感は、驚きの域を遥かに超えていた。

ふと思う。感性が鈍り始めたのか、何時の間にかと。

更に思う。時として耳にするスマホ依存への危惧を。利器は活用すべし、振り回されまじと。ガラ携を手に、頑固者の独り言。

函館の朝。その日の市電内は女性と小学生で混み合っていた。

旅行バックを手に乗り込んだ私を目にして、数名の小学生が無言で席を立つ。仕草が可愛い。

思わず「何処から」と、問いかける。はにかみながらの返事がいとおしい。傍らには、優しい笑を浮かべ温かい眼差しで寄り添う女性教師。思わず頬が緩む。

図らずも、健やかに成長しつつある子ども達を目の辺りにでき、心が温まる。

良き出会い、嬉び込めて独り言。

子どもたちのために



昭和三十九年 一類
鈴木 清 二

子どもたちの登校日、七時半をめぐりに家を出る。近くの通学路で子どもを見守りをすることを日課としている。

「お早うございます」と声をかけると「オハヨウゴザイマス」と元気のよい声が返ってくる。

子どもたちの張りのある元気な挨拶はさすがに感ずるものである。とりわけ黄色いカバールを付けたランドセルを背負った一年生は反応がいい。

朝、子どもの登校する時間帯は大人の出勤時間とも重なるせいか、車の通りも多く、事故に遭遇することや不審者による子どもへ悪質な行為など、子どもの安全を脅かす出来事が危惧されるこのごろである。

教職を離れて十七年になるが退職校長会に加入して渡島支部の活動に「登下校時安全サポート」を活動の一つとして仲間と

ともに実施してきたこともあり、見守りを自分の日課に組み入れて続けているところです。

顔見知りになる子どもから「きのう誕生日で〇〇をもらったの」など話してくれて、なにかうれしい気持ちになる。

いつまでできるかわからないが役に立てるうちは続けようと思っています。

十六年間の雑感



昭和三十九年 一類
中里 勝 平

教職生活から離れて十六年の歳月が過ぎ、この間に取り組んだことや経験したことなど幾つか述べることにします。

一つには、同期で「三九理科会」を設立し年一回集まり、学生時代、教員時代など話題は多岐に亘っています。数年前から、気象台、産廃処理場、水産加工場など理科的な施設見学等を取り入れ刺激を与えています。今後とも会の継続を約束しています。

二つには、地域ボランティア

活動に参加する機会に恵まれたことです。最初民生児童委員に誘われ、町会役員、在宅福祉委員と活動の場が広がっていきました。それぞれの役割は異なりますが、社会奉仕の気持ちと多くの方と接することで逆に学び精神的成長に役立っています。

三つには、縁があり専門学校講師を十三年間勤め、この三月に終えました。担当は国家試験科目の物理・化学分野でしたが、講義に向け教材研究や資料作成などにエネルギーを注いできました。お陰で脳の活性化に役立っていたと考え、学生達には心から感謝したいと思っています。

四つには、退職時に友人から勧められパークゴルフを始めたことです。ゴルフも一緒に行っていました。が両立せず、パークだけにしました。旅行気分が幕別、旭川、札幌、恵庭、白老など全道各地でプレーを楽しんできました。成績は努力に比例しておりませんが、心身の健康のため続けたいと考えています。

会員紹介

八雲に就職できた秘密

平成8年 総合科学課程(経営科学専攻) 卒

三坂 亮 司



八雲の木彫り熊



噴火湾を望む育成牧場



噴火湾産「耳吊りホタテ」

「日本で唯一、二つの海を持つまち八雲町！」我がまち八雲町のキャッチフレーズだ。

八雲町は、太平洋と日本海に囲まれ、豊富な海の幸と日出と夕陽が一度に楽しめるまちで、尾張徳川家入植の歴史を持つ。北海道土産の定番「木彫り熊」発祥の地としても知られ、鮭を啜っていないメタボリックな熊は、巷で人気となっている。

私が八雲町に奉職することのできたのは、大学一年の冬の出来事だった。野球部の私は、恒例となっていたダンス部発表会スタッフを引受けていた。その時、ダンス部顧問から、「中学時代の担任は○○だな。奴は、俺の最初のゼミ生だ。だから、お前は卒業までダンス部を手伝え！」と今では問題になりそうな体育会系の命令をいただき、卒業まで一度も授業を受けたことはなかったが、○○先生の大学時代の恩師だからと、妙に納得して引き受けた。

就職に失敗し途方に暮れていた大学四年の冬、教員採用試験に合格した親友が八雲町へ帰省し、偶然読んだ町広報に、時季外れで社会教育主事募集の記事を見つけ、すぐに連絡をくれた。

これが就職のラストチャンスと、ダンス部を手伝う傍ら、受験準備を進めていたところ、八雲町の情報を調べ、就職指導を親身になつてしてくれたのは、この教授だった。

卒業以来、秋味遡上が話題となる頃に必ず思い出す人生を変えた大学時代の思い出だ。

私にとって、函教大での縁は、たくさんの幸をもたらしてくる豊かな海といえる。

これからも、八雲の木彫り熊同様、丸くなった体形を夕陽会の豊かな縁で、益々肥やして、巷の人気者になりたいと思う。

終身会員の皆様へ

「平成三十年度 勇退者激励・感謝の会」を次のように開催いたしますので、ご案内申し上げます。

◎二月九日(土)

懇親会：午後五時より

◎会場 ホテル法華クラブ函館

◎会費 六千五百円

◎申し込み締め切り

一月十五日(火)

◎申し込み方法

同封の葉書にてお申し込みください。

あとがき

新会員・終身会員の皆様の特集号、『夕陽渡島』第百三十六号をお届けいたします。御寄稿いただいた皆様には、大変お忙しい中での原稿執筆に心より感謝申し上げます。

また、今号も会員の皆様に多大なる御協力をいただき、予定どおり発行できましたこと心よりお礼申し上げます。